



12月15日～21日の一週間、韓国の済州島で行われたIJFコンチネンタル試験に行かせていただきました。

コンチネンタル試験は、前半にセミナーが行われ、セミナー終了後、英会話や柔道実技、審判実技の試験（プレテスト）があり、後半に、実際の国際大会をさばく実技試験がありました。事前に、コンチネンタル試験を受験されたことがある先輩方に話を聞き、ルールの確認はもちろんの

こと、英会話を学んだり、ジェスチャーの確認をしたりして準備をしました。初日のセミナーは、日本でいう「審判講習会」であり、ルールの確認や映像を見ての研修が行われ、一つの映像を紹介されて、「今の映像をあなたはどうか考える？」と質問されて答える方式でした。同じ映像を見ているのに、「こんなにも見解がわかるのか？」というぐらい、様々な捉え方をしている審判員が沢山いて、少し戸惑いました。

セミナーを終え、試験が始まる時に、「いつも通りリラックスして、堂々とさばきなさい。」とアジアの審判委員会の先生方に言われ、緊張が少しほぐれ、いつも通りの振る舞いができたと思います。初日の試験内容は、簡単な英会話（自己紹介や出身地、得意技など）と、柔道の実技（投げ技や固め技など）でした。そして、審判の所作を見るプレテストがありました。韓国の選手が試合を行い、実際にさばいてみるという試験で、3回ぐらい主審をしました。国際大会なので、1審制で、インカムをつけ、インカムでの会話は英語のみで、慣れることに時間がかかりました。副審席では、ケアシステムの確認と見解の確認、二人で即座にコミュニケーションをとり、わずか数秒の間に的確に主審のインカムに伝えるという作業があり、何度か指示が遅れてしまったことがありました。しかし、何度か繰り返すうちに、素速くできるようになり、後半は審判3人で息の合ったジャッジができました。

前半の試験を終え、審判員の仲も深まり、休憩時間や審判終了後の時間も自然にコミュニケーションをとることができました。後半の試験は、「チェジュカップ国際大会」で実際に審判を行いました。過去最多の参加国と選手、観客で、とても緊張しました。小学生から一般までの幅広い年齢が試合をするため、動きも様々で、とても勉強になりました。緊張はしましたが、いつも通りに審判することができ、副審のフォローも的確にできたと思います。お互いに「Good job!」「Nice judge」と声をかけあいながら、笑顔で終えることができました。全ての試験終了後、結果発表があり、全員が無事に合格することができ、認定書とネクタイとエンブレムをいただき、全員で集合写真を撮りました。

今回の試験を通して、沢山の国の審判員と交流ができ、視野が広がったとともに、柔道を通して様々な国の人とつながることができ、本当に良い経験をすることができました。これからは、さらに技術を磨き、次の試験に向けて経験を積んでいきたいと思っています。また、正しいルールを島根県に伝えるとともに、島根県全体の審判員技術向上に進んで協力していきたいと考えています。

